

『SACSA』にみる南オーストラリア州での Handwriting の教育 及び学習テキストに関する基礎的研究

信州大学 小林比出代

はじめに 一本論考の意図

オーストラリアでは、6つの州と2つの連邦政府直轄区においてそれぞれの教育省が教育行政を担当しているため、各州や区の教育制度や内容は異なり多様である¹。しかし、多文化・多民族主義に基づき教育を大切にすることは国家の方針として一致し、外国語教育や多文化教育の促進は教育に関する国家共通の目標の一つに掲げられている。特に、英語以外の言語教育は重視され、アジア言語の学習を学校教育の一環として実施する指針が出されている。日本語の教育も初等中等教育段階で盛んに行われており、日本語の学習者は急増している。

オーストラリアの Handwriting の教育は、日本の場合と同様に国語教育の一領域として位置づけられている。管見によると、オーストラリアでの日本語教育の盛行に対して、日本でオーストラリアの Handwriting の教育に関し論じた文献は見受けられない。筆者はこれまでに、文字を書くことの教育(=書字教育)について、日本とアメリカ、イギリス各々との比較研究を行っている。これら先行研究で研究対象とした国々と同じ英語文化圏にあり、かつ日本語教育に関心の高いオーストラリアでの Handwriting の教育について調査検証を始めたところ、文字を手書きする教育の在り方を改めて見つめ直している例を南オーストラリア州に見出した(詳細後述)。本論考では、現在の南オーストラリア州における Handwriting の教育の在り方に関して、当該州でナショナル・カリキュラムの役割を担う『SACSA(the South Australian Curriculum, Standards and Accountability)』を教育政策及び具体的な教育内容・方法の側面から考察することにより、今後の日本の書写教育に反映できる要素を明らかにしたい。

1. 『Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd Edition』²のねらい

『SACSA』のホームページには、Handwriting の教育を支援するため南オーストラリア州の教育省が2006年に編集発行した『Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd Edition』と保護者へのパンフレットが、2007年、南オーストラリア州の全学校に配布された旨が記されている。巻頭言冒頭には、本書が1983年南オーストラリア州の教育省によって編集発行され、現在も南オーストラリア州の Handwriting の教育におけるテキストとして使われ続けている『Handwriting : South Australian Modern Cursive』に代わるものであることが述べられている。続いて、昨今の Handwriting 及びその教育に関して寄せられる代表的な4つの質問が紹介されている。その筆頭に挙げられている「手書き(手で文字を書くこと)は未だ重要なのか」との質問に対しては、以下のような回答が示されている。[※以下、ゴシック部及び表は小林の訳による。]

「特に今日までの10年間はコンピューターの使用が飛躍的に伸び、児童たちには、キーボードの操作技能が向上したり使用できたりすることが益々期待されている。しかし、児童たちは、日常生活の多くの場面において手で書くことが求められ、またその必要性はこれからも続いていく。仮に社会一般での“書く”技能が複雑化しても、基本的な書字技能は、Handwriting の発達過程での早い段階と一生涯との双方において必要不可欠である。」³

情報化社会と呼ばれて久しい今日、コンピューターが国の内外を問わず日常の情報機器として使用され続ける中で着目すべき記述である。平井氏が指摘する「文字を書くこと」を「コミュニケーションの手段」として割り切れない東洋特有の「見方」⁴が存在しないオーストラリアでこうした見解が公的に打ち出される意味合いを重視

したい。

次に『SACSA』で Handwriting の教育指針を提言する理由と各発達段階の具体的な教育内容が記されている。

「書字技能を育成する機会を児童たちに提供するのには紛れもなく学校の責務である。このことは『SACSA』に明示されている。こうした技能は通常 Early Years と Primary Years で育成される。しかし、読みやすく流暢な Handwriting のスタイルを育成する機会は、Middle Years においても与えられる必要がある。

手で文字を書くことを児童たちに指導する際、文字構造や書字技能の発達段階には個人差がある。場合によっては個別指導や他の児童以上の練習が必要となる。学校全体で書字技能の育成を図ることが重要だが、同時に Handwriting はコミュニケーションのための一つ的手段であると認識することが大切である。」⁵

Handwriting の教育は初等教育を通して行われるが、特に低学年中学年の段階が中心となること、その折に個人差をふまえた指導が必要なこと、また、アメリカやイギリスと共通する、Handwriting をコミュニケーションの一手段として認識する基本姿勢がわかる。

巻頭言の最後には就学前の Handwriting の教育について述べられており⁶、さらに、保護者向けのパンフレットには、「書く能力はコミュニケーションの大切な礎である」⁷とのキャッチコピーとともに、Handwriting の教育の意義や具体的な内容について、保護者からの質問に答える形で説明がなされている。以下内容の一端を記す。⁸

「なぜ手書きについて学習することが大切なのか？」

→ Handwriting はことばを使ったコミュニケーションの一つの形である。学習者たちはキーボードを使って書く機会が増える反面、手で文字を書く能力は彼らの毎日の生活の多くの側面において重要な技能として存続している。(中略) さらに、Handwriting の育成は人間としてのアイデンティティを確立するのに欠くことができない必須の側面である。署名も個々人のマークとして広く認識されている。」

「学校や幼稚園において、学習者はどのような支援を期待できるのか？」

→ 本書は、南オーストラリア州の学校や幼稚園を網羅する形で行われた慎重な協議の結果編集された。

学校や幼稚園は、目と手の連動や書字技能を育成するための諸要素を提供する責務がある。

学校での学習者は、文字の構造について学び、Handwriting について系統的に学習する機会がある。」

「どの持ち方が望ましいのか。そしてそれをいつ学習すべきか？」

→ 望ましい持ち方は三角形の持ち方である。この持ち方が出来るようになるために、筋力の発達が特定の段階に達した時点で的確な技能の育成を図る必要がある。」

これらの記述から、全ての教育段階を通じた着目すべき点に加えて、Handwriting とアイデンティティの確立や系統的な Handwriting の教育の在り方に関して熟慮されていることもわかる。また、望ましい硬筆筆記具の持ち方が日本と同じ定義でなされ、かつその学習が重視されていることも注目したい。

2. 『Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd Edition』の分析と考察

2-1 導入⁹

巻頭言に続く本書の導入部には、Handwriting はコミュニケーションの一面であること、また、学習者中心主義の立場をとる『SACSA』では Handwriting の指導法を明確に解説し、教授者は Handwriting の指導の重要な役割を担うことが記されている。その上で Handwriting の意義やその学習については次のように述べている。

「Handwriting が道具・手段であるのは、ワードプロセッサが道具・手段であるのと同じことである。

しかし、Handwriting は他に類を見ない特有なものである。それは個々人を認識できる重要な側面である。」

「読みにくい Handwriting は自尊心に対して二次的な影響を及ぼす。児童は学校で自分の Handwriting を絶えず視覚的に不十分不適當なものとして見ていると、書く学習に対する興味や関心をなくしてしまう。」

以上の解説から、手で文字を書くことの教育に関し、文字体系や文化の違いを超えたオーストラリアと日本の共通性が見出せる。

2-2 基本理念¹⁰

「〇書き手が Handwriting によって自由に表現やコミュニケーションが図れるようになることを通して、Writing の過程を習得できる。

〇Handwriting は個々人の発達段階及び適切な指導と模範に基づく身体的な技能である。

〇Handwriting は芸術及び個々人の表現の一つの形として評価される。」

以上3点が Handwriting の学習の基本理念として挙げられる。ここで、芸術や表現との観点が盛り込まれることに着目したい。オーストラリアでは、Handwriting をコミュニケーションの一手段としている点でアメリカやイギリスと共通するが、一方で、両国には見られない芸術性や表現性に立った観点が提示されている。これは、「2-5-2」の「評価項目」にも深く関わっている。

2-3 南オーストラリア州の学校教育で用いる書字スタイル¹¹

ここで、南オーストラリア州の学校教育で用いられている書字スタイルを確認しておく。南オーストラリア州の学校では「South Australian Modern Cursive and Print」が採用されている。この書字スタイルは、学校で教える書字スタイルをより簡易化しようとする国際的な動きと、南オーストラリア州に既存の書字スタイルとを勘案した結果考案されたこの州独自のものである。South Australian Modern Cursive and Print は、通常学校で教授される書字スタイルが持つ特性を可能な限り多く備えている。

(South Australian Modern Cursive and Print)

2-4 学習の発達段階¹²

本章では Handwriting の指導内容と要点を教育段階に応じ明示している。以下、就学後の具体的な内容を表にまとめる。

教育段階	特徴	指導内容・指導のポイント
Early Years (Reception —第2学年)	<ul style="list-style-type: none"> 〇読みやすい Handwriting を目的として、フォームや自分の名前に使われている文字や数字を認識する。 〇書くことの学習は心身ともに難しい活動である。身体的にウォーミングアップできる活動や話し言葉と書き言葉を結びつける言語体験により児童を支援する。 〇指や肩のウォーミングアップを充実させる 〇Handwriting の基礎的な学習事項を習熟して各自の言語体験に生かす 	<p>正しい文字、数字の形、姿勢、用紙の置き方、姿勢と鉛筆の持ち方に関する特別な学習を含むプログラムが指導の明確な焦点となる。</p> <p>学習者の実態や発達段階に応じて以下の側面に焦点をあてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦読みやすい Writing ◦描画と Writing を区別する能力 ◦Writing は考えや発言を表現できるということへの理解 ◦望ましい筋力相互の発達 ◦利き手の選択 ◦手書きもしくは印刷物の要素 一間隔・余白、単語、文字、方向—に関する用語や概念への認識 ◦字形 一始点と終点、方向、書き順 一傾斜、大きさ、形、全体バランス(均整)、文字の配置と間隔 一文字の接続 (hook と kick(両者とも文字の終筆部に現れる画。kick は文字の基部から、hook は文字の上部から現れる。)) 一行頭、行の中程、行尾での統一された大きさ ◦数字の形 ◦望ましい鉛筆の持ち方 ◦用紙の置き方・手腕の位置・姿勢(左利きと右利き双方に関して) ◦字形に関する視覚的記憶 ◦発達段階に応じた Handwriting の基礎に基づく書字動作 ◦小文字と大文字を識別し、字形を正確に形成する能力
Primary Years (第3学年 —第5学年)	<ul style="list-style-type: none"> 〇Handwriting の学習は当該学年(=第3～5学年)を通して重要であり続ける 〇学習者は基礎力を固め学習を統合する。また、print から cursive writing へ移行する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇用語と、書かれた教材と印刷された教材とを関連させる概念 一間隔・余白、単語、文字、文字と方向の関係—を理解する。 〇26の小文字と大文字を認識し、正しく書ける。 〇英語内に規則正しく恒常的に現れる文字のパターンを自然のうちに習得する 〇メッセージや書式、Writing の目的に焦点をあてた十分な読みやすさと流暢さを育成する。 〇読みやすい Writing の目的をより理解できるように育成する

<p>Primary Years (第3学年 —第5学年)</p>	<p>○読みやすさと流暢さの観点において、一度基本的な文字の形と書き順が習得できれば、その後は最初に学習したことの延長上で文字を提示することができるようになる。</p>	<p>○文字を続け書きできるようになるのは以下の時期である</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦望ましいペンの持ち方で、単語を書く際26の小文字を正しい字形で書ける。 ◦傾斜、大きさ、間隔・余白、文字の配列に関して一貫した書き方を提示できる。 ◦文字を連続させようと努める兆候を見せる ◦一般的な文字の書き方に関する理解を發展させている <p>○文字を続け書きするのに不適切な技能を育成することを避けるため、続け書きに関する指導は学習者が上記の特性を示したらすぐに始めるべきである。これらは通常第3学年の初めに現れる。kicks と hooks は続け書きの前兆であり、通常は第2学年の最後に導入される。</p> <p>○多くの教師は、先述の文字の終筆部に現れる画 (kicks と hooks) を文字の連続に関する学習時と同時に紹介する。</p>
<p>Middle Year (第6学年 —第9学年)</p>	<p>○標準的なフォームを一度しっかりと育成したら、Middle Years ではそれぞれ固有の Handwriting を奨励した方がいい。</p> <p>○基本的なスタイルが確立し、Writing の用途に適應させている。</p> <p>○この時点で読みやすい署名の育成に注意を促す</p>	<p>○読みやすく、流暢で、安定感があり、美的に好まれる個々人の書きぶりを發展させる。</p> <p>○適度な範囲で模範的なフォームから効果的に逸脱する</p> <p>○必要に応じて様々な目的のための装飾や代替のフォームを用いる</p> <p>○異なった筆記具の使用、外見やスタイル、書く速さが書字に与える影響について試みる。</p> <p>○電話のメッセージ・インタビュー・放送・短い講演の記録を的確な速さで書けるよう練習する</p> <p>○スピードループの練習を促す</p>

ここで注目すべきは、文字体系による差異（例 大文字小文字の学習）や学習用具の違い、Cursive writing の学習は小学校／行書の学習は中学校との相違は別として、南オーストラリア州での発達段階に応じた指導内容が日本の場合と近似していることである。中でも、日本の行書学習での筆脈に関する指導の在り方と、南オーストラリア州の Cursive writing の学習での hook (=連続する前に文字の上部に出る連続線 例：Cursive writing での「o」) と kick (=連続する前に文字の下部に出る連続線 例：Cursive writing での「h」) に関する指導の在り方が類似していること、また、学年が進むに従って指導内容が実用的日常的な場面のものへと広がっていくことから、文字を書くことの教育に関する共通性を見てとれる。さらには、利き手に関して、文字を書くことにおける右利きと左利きの平等性に立脚し、それぞれの詳細について説明しているところに着目したい。

2- 5 Handwriting の学習プログラム

教育段階に応じた指導内容に続き Handwriting の学習プログラムが詳細に提示されている。要点をまとめる。

2- 5- 1 Handwriting のプログラムの作成¹³

2- 5- 1- 1 目的の確立

最初に以下の文章に記す基本姿勢が示され、続いて具体的な5項目が列記されている。

「読みやすく流暢な個々人のスタイルを作るために、Handwriting のプログラムには以下の要素が含まれてはいけない。

- Handwriting の技能及びスタイルの指導
- 技能を育成するための練習と様々な Handwriting のスタイルの体験
- 正しい姿勢と用紙の置き方の学習
- 自分の Handwriting の進捗状況を評価し観察できる能力を育成する機会
- 必要な知識と態度、技能と自信を持ってそのスタイルを作り出せる能力を育成する機会」

2- 5- 1- 2 技能と書字スタイルの決定

「Handwriting の技能は、用具の持ち方、用紙の置き方や姿勢、実際の Handwriting の動きと関連している。」

「Handwriting のプログラムを成功させるのに影響を与える最も重要な事柄の一つは、学習者が基礎的な技能をどのように教えられ、その育成がどのように奨励されたかである。」

として、Handwriting の基本的な技能における望ましい在り方を提示している。以下各項目の要点のみを列記する。

鉛筆の持ち方	三角形の持ち方が望ましい
Handwriting の動きの明確な教授法	○Handwriting の動きは指と手と腕の動きと連動している ○鉛筆を持つ時、指は先端から3cm上の部分を持つ。左利きでは書いているところが見えるように、右利きの場合よりもっと先端に近い位置で鉛筆を持つ。○用紙の置き方も重要である ○空中、ホワイトボード、黒板、大きな用紙を用いての指と手、腕の動きは、Handwriting の課題に臨む前に学習者がリラクセスもしくはウォーミングアップするのに有効である。
文字の形成	○続け書きは流暢さと速さを容易に促進する点において重要である ○楕円形の文字は全て反時計回りで2時の位置から書き始める
大きさ	○字形は均整がとれていなくてはならない。文字においては heads (=文字の上部) と bodies (=文字の中程) と tails (=文字の下部) の調和がとれていなくてはならない。文字はそれぞれの幅と高さの相関性が保持される必要がある。文字の heads と bodies と tails が3分割した時揃って見える。 ○大きな文字の字形は指一頭一腕の連携に左右され、小さな文字の字形にはペンの持ち方が影響する。
傾斜	○各人の書きぶりの中で一貫した傾斜角度でなければならない ○5度から15度の傾斜角度が望ましい
文字間隔	○文字間隔が一貫していると読みやすさ及び Handwriting の外観が向上する
配置・配列	○単語の配置に一貫性があると文字相互の関連性が規則正しく見える
Cursive style	○読みやすさと一貫した Cursive のスタイル育成のため、各文字の正しい書き順を学習すべきである。 ○Cursive の構造について指導されている際は以下の2点に考慮する ◦ 文字の終筆部に特別な注意を払う ◦ 文字間隔により注意を払う
連続 (続け書き)	○文字の連続に関しては以下の具体的な規則がある [※紙面の都合上、個別の文字に関する解説は省略] ◦ 大文字から小文字への連続はない ◦ 各字形の始点や動きの方向は連続の動作の延長上にある ◦ 連続は単語の中の文字と文字との間で起こる、自然に流れるような動きの結果である。 ◦ 連続が上手く行われないことは文字にゆがみを起こす原因となる ◦ 連続した書き方での動きをシミュレーションするのにより適切であることから、少字数の文字をグループとした練習は、単独の文字の練習より手厚く行われるべきである。 ◦ 次の文字へ連続する場合は、その文字の終点から次の文字の始点へ直接連続させる。 ◦ 文字の終筆部は連続して書くことにとって重要である ○Handwriting の指導は正しいスペルの育成を援助する
ペンリフト	筆圧が0になること、筆圧を抜くことを意味する。 完全に紙からペンが持ち上げられ、連続した線がとぎれること。 自然な休息は手をリラクセスさせ、読みにくさを回避する助けとなる。
書く速さ	単語が相当な速さで書かれた場合、不適切な Handwriting の技能が展開されたり、文字構造や連続の方法が望ましくない形で行われたりするために、その読みやすさは低下する。 各人のスタイルが維持できる速さで、かつ、会議でのメモをとるといった状況を設定して、速さに関する練習をする。

「連続 (続け書き)」の学習には特に重点が置かれていること、また、その在り方が日本の行書学習の場合と重なることはここで改めて特筆したい。左利きへの配慮が右利きと同じくなされている点も同様である (表中省略)。

さらには、「大きさ」の項で記しているアルファベットの bodies (中程) heads (上部) tails (下部) それぞれのバランスに関する考え方は、日本の書写教育での漢字の字形に関する学習で「部分の組み立て方」として挙げられる「左右」「上下」「内外」との比較検討が可能な概念と推考できる。「2-5-2」の「評価項目」においても、head (ascender) と tail (descender) のバランスについて重視されていることを含め、注目したい点である。

本章で新たに提示されているのは「ペンリフト」との概念である。これは書字活動での動きに伴って起こるリズムを重視した、南オーストラリア州独自のものと推察され、また、「連続 (続け書き)」の学習で特に重要な観点と考えられる。日本の書写学習において書字過程が重視されている現在、書字動作での動いている只中への関心は高いことに対し、筆圧が0になり線がとぎれた休止状態時そのものへの着目はあまりなされていない。日本の、特に硬筆書写では見られにくい、もしくは見逃しやすい大切な観点と考えられる。またこれは、行書の学

習での要件でもある。

2-5-2 評価項目¹⁴

学習プログラムに関する最後には、評価の観点がまとめられている。評価項目の柱としては

○読みやすさ [legibility] ○美しさ (見た目のよさ) [aesthetic appeal]

○速さと流暢さ [speed and fluency]

の3点が挙げられている。1点目と3点目はアメリカ、イギリス、日本それぞれでの目標との共通性を有する。しかし、アメリカやイギリス、もしくは現在の日本では、「正整美」や「正確さ」を「読みやすさ」や「速さ」と同等に重視するところ、南オーストラリア州の場合、前者3国には盛り込まれていない見た目の美しさといった観点が打ち出されている点は注目に値する^{15 16}。「2-2」の「基本理念」を踏襲するものと捉えることができる。

南オーストラリア州での、上記3つの評価の観点に関してなされている解説の要点を以下にまとめる。

評価項目	観 点 の 詳 細
読みやすさ	<p>(技能と態度・行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○Writingの準備 ○正しい鉛筆の持ち方 ○適切な姿勢 ○正しい用紙の置き方 ○正しく一貫した構造の文字 ○始点 ○線上の配置 ○Writingの方向 ○間隔・余白 ○形 ○大きさ ○傾斜 ○速さと書きやすさ (年長の学習者向き) <p>(文字構造の質) ○始点 ○動きの方向 ○適切な連続を伴う文字の完成</p> <p>(Handwritingの一貫性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○間隔・余白 ○単語間は等間隔か、開きすぎか、詰め過ぎか。 ○文字の間隔は一貫し、また適切か。 ○形 ○類似した字形や文字のグループは一貫した形状か — 特に文字のbodiesにおいて ○大きさ ○文字 — 特に文字のbodiesは一貫した大きさか ○傾斜 ○Writingの傾斜は均一か ○文字は直立、もしくは10度から20度右に傾いているか
美しさ (見た目のよさ)	<ul style="list-style-type: none"> ○Handwritingの美しさ (見た目のよさ) は読みやすさによって決定される ○指導者は以下の点を考慮する ○容易に速く読めるか ○見た目が魅力的で心地よいか ○指導者は文字構造と質を観察する <ul style="list-style-type: none"> ○ head (= ascender : b, d, f, h 等の小文字で a, c 等より上に高く出る部分) と tail (= descender : p, q, j, y 等の小文字で基線より下に伸びる部分) のバランスは一貫しているか ○ 適切な筆圧で書いているか ○ 字形、連続、ループに過度の回転はないか。 ○プレゼンテーションと書式も Writingの魅力の要因となる。指導者は以下のようなコンベンションを利用する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 余白の使い方 ○ 見出し ○ 日付 ○ ページのレイアウト
速さと流暢さ	<p>必要な技能を習得し、自然な Handwriting のスタイルを開発している流暢な書き手は、本格的な文章の中で自分の Handwriting の速さに関して評価ができる。</p>

3. 『R-10 English Teaching Resource』¹⁷にみる Handwriting の教育目標

『R-10 English Teaching Resource』は、『SACSA』での Handwriting の教育に関する内容を具体的かつ実践的にまとめたものである。本書が刊行される前、2003年に『R-7 English Teaching Resource』が発表されているが、本書はその改訂版であり、現在は『R-10 English Teaching Resource』に基づいて Handwriting の教育が展開されるよう通達されている。両者ともに、南オーストラリア州の全学校間においてカリキュラムの統一性一貫性が図られることを目的として編集された。以下、Reception から Year 5 までの Handwriting の教育目標を記す。

学 年	目 標
Reception	○正しい鉛筆の持ち方を試みる ○利き手を確立する ○正しい文字構造を練習する ○左から右へ書く
Year 1	○調和がとれた一貫性のある文字や数字の構造を提示する ○単語や文字の間に空間をつくる ○罫線の上に書く

18

Year 2	○小文字と大文字の正しい文字構造を使う ○罫線に対して文字を正しく配置する	○数字の正しい構造を使う ○kick (例 t) を使い始める	19
Year 2	○文字の大きさや形、及び単語間の空間での一貫した調和がとれており、整然として読みやすく書ける。 …※R-7にはない		
Year 3	○正確かつ適切にアルファベットと数字を形成する	○連続した書き方を始める	
Year 4	○一貫した形、大きさ、傾斜具合、文字構造を使って書く。 ○Writing の時に文字を連続させる	○正しい鉛筆の持ち方で正しい姿勢を保つ	
Year 5	○現在の書き方を保ち、一貫性、流暢さ、読みやすさを向上させる。 ○速さが字面に与える効果影響を様々な文房具によって試す ○記録を速く記す練習をする (例：電話のメッセージ インタビューの記録)		

おわりに

『SACSA』での Handwriting の教育に関する概念や基本方針に関し、本論考で掲げた文献から大局的な観点に立ち検証するとともに、具体的な教材研究及び日本の書写教育との比較検討について継続した考察を試みたい。

【謝辞】 本論考にあたり貴重な資料とご示唆ご助言をくださった、南オーストラリア州 Sandy Creek Primary School の阿部真理子先生に深謝申し上げます。

- 1 石附実・笹森健編『オーストラリア・ニュージーランドの教育』東信堂 2001
佐藤博志『オーストラリア教育改革に学ぶ―学校変革プランの方法と実際―』学文社 2007
【参考】南オーストラリア州の Primary School の場合
Reception : 5～6歳 (4歳でも月の数え方によって入学可)
Y1 : 6～7歳 Y2 : 7～8歳 Y3 : 8～9歳 Y4 : 9～10歳
Y5 : 10～11歳 Y6 : 11～12歳 Y7 : 12～13歳
- 2 Government of South Australia, Department of Education and Children's Services, *Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd edition*, 2007.
- 3 Ibid.
- 4 平井昌夫『新しい国語教育の目標』新教育協会 1949 pp.126-128
- 5 *Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd edition*.
- 6 Ibid.
- 7 Government of South Australia, Department of Education and Children's Services, *Handwriting in the South Australian Curriculum, Information for Parents*, 2007.
- 8 Ibid.
- 9 *Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd edition*., p.2, p7
- 10 Ibid., p.3, p.7
- 11 Ibid., pp.74-75
- 12 *Handwriting in the South Australian Curriculum 2nd edition*, pp.8-16
- 13 Ibid., pp.20-25
- 14 Ibid., pp.30-31
- 15 小林比出代「教育目標から見た英・米国の Handwriting の教育と日本の書写教育」／『書写書道教育研究 第12号』1998
- 16 ただし、イギリスの場合は、Key Stage 3 (11～14歳) になって初めて「作品として読者を引きつける [attractively]」との目標が掲げられている。
- 17 The State of South Australia, Department of Education and Children's Services, *R-10 English, Teaching Resource*, 2004.
- 18 Ibid., p.29
- 19 Ibid., p.49